はばたき

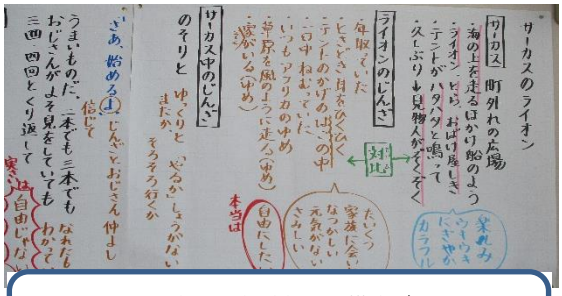
橋北小学校
学校だより
No.9
学力学習状況調査号
令和４年９月28日

◆令和4年度全国学力学習状況調査の結果から

４月19日に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。この調査は、全国の6年生を対象に 5年生までの学習内容の定着と、学習や生活の状況を調査するものです。今回の結果から見えてきた本校の学力の状況（強みや弱み）、改善に向けての取り組み等について下記のとおりお知らせします。一人ひとりの結果については個人票をお渡ししますので、その結果をもとに、強みをさらに伸ばすとともに、弱みの改善にむけて取り組んでいってほしいと思います。

１　学力の状況（国語・算数・理科）

本校の正答率を全国平均と比較すると、国語と理科は全国平均を上回り、算数は全国平均と同程度でした。結果からみる、各教科の強み（◎）弱み（▼）は次の通りです。



国語：登場人物の関係や物語の構成がわかるよう、物語教材で学習したことを教室掲示しています。

＊国　語

◎登場人物の相互関係を、描写をもとにとらえる。【読むこと】
◎人物像や物語の全体像を具体的に想像する。【読むこと】
◎表現の効果を考える。【読むこと】
▼文章構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。【書くこと】
▼文章に対する感想や意見を伝え合い、文章のよいところを見つける。【書くこと】

領域別にみると、国語の「知識および技能」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域では、全国平均を上回りましたが、「書くこと」の領域で苦手さがみられました。

昨年の調査結果で本校の課題となっていた「目的や意図に応じて文章全体の構成をとらえ理解すること」については、4・5年生で実施した「みえスタディチェック」でも県平均を上回り、改善傾向がみられます。引き続き、国語の学習では「文章全体の構成をとらえる」ことを継続して行うとともに、自分の考えが伝わるように、文章の構成を工夫して書く、書いた文章を発表し、感想や意見を伝えあうなどの学習を充実させていきます。



＊算　数

◎パーセントで表された割合を分数で表す。【変化と関係】
◎割合と基準量から比較量を求める。【変化と関係】
◎長方形やひし形平行四辺形などの図形を構成する要素の理解、判断【図形】
▼かけ算の計算、最小公倍数を求める、式の表し方を文章で記述する。【数と計算】
▼データをもとに目的に応じ特徴を捉えたり、必要な情報を読み取る。【データの活用】

領域別にみると、「図形」「変化と関係」は全国平均を上回りました。一方「数と計算」は全国平均

をやや下回り、特に弱さが見られた領域は「データの活用」でした。
　昨年度は弱さとして見られた「図形」の問題ですが、今年度は、長方形やひし形の性質、平行四辺形の判断において、定着がみられました。
　一方で、「1050×4の計算」「14と21の最小公倍数を求める」問題で、全国の平均正答率が9割を超えるところ、本校の正答率は約7割で、うっかりミスと思われる回答が多くみられました。基本的な計算の力とともに、見直しスキルも上げていく必要があります。
　データの活用については、4･5年生で実施した「みえスタディチェック」でも県平均を下回り、本校の弱みといえます。データから読み取ったことをもとに説明や記述をするなどの学習活動を積極的に取り入れていきます。

*理　科
◎日光は直進することを理解している。【エネルギー】
◎天気と気温の変化について、観察結果を分析し自分の考えを持つ。【地球】
▼カブトムシの育ち方と食べ物の特徴から、表のどこに当てはまるのかを選ぶ。【生命】
▼昆虫（ナナホシテントウ）の体のつくりの理解【生命】
　領域別にみると、生命に関する分野でやや苦手さがみられました。思考･判断･表現を問う問題、記述式の問題では全国平均を上回っており、強みといえます。
　理科の基本的な知識の定着をはかるよう繰り返して学習したり、観察結果からわかることを自分の言葉でまとめていく活動を今後も継続していきます。

2. 学習や生活の状況

　9割以上の子が「人の役に立ちたいと思う」「友達と協力して、課題解決に取り組むことは楽しい」と回答しています。普段の授業や休み時間の様子からも、話し合いや教え合いなど、仲間と協力しあって活動している姿が日常よく見られます。
　肯定的な回答の割合が高かった項目として「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている」「算数や理科の授業で学習したことは将来、社会にでたときに役に立つと思う」「算数の問題がわからないときにはあきらめずにいろいろな方法を考えたり、もっと簡単に解く方法がないか考えたりする」と学習に前向きに取り組もうとする意欲が感じられます。



　一方で、タブレットを取り入れた学習時間や、自分で計画を立てて勉強をしたり、家庭での学習時間の少なさが課題としてみられました。読書習慣については、読書時間が多い子とほとんど読書をしない子の割合が高いことから、読書習慣がついている子とついていない子の差が大きくなっていることが伺えます。
　今後は、家庭学習で、自分の苦手なところを意識して学習できるよう、タブレットドリル等を用いて苦手さに応じた反復練習を取り入れたり、自主学習の進め方を指導していきます。また、読書週間などの取り組みを通じて、どの子も本に触れる機会が増えるようにするとともに、家庭と連携して読書習慣の定着に取り組んでいきたいと考えています。
　今後とも学校と家庭と地域が連携し、子どもたちの育ちを支えていきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。